

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200455		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム すぎの子		
所在地	札幌市東区東苗穂3条1丁目13-29		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyoSyCd=0170200455-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慣れ親しんだ場所での、その人が穏やかに最期を迎えて頂ける様、「看取り」に積極的に取り組んでおり、又、その人がその人らしく、楽しく過ごして頂けるように、ダイバーショナルセラピーを取り入れ、実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、清閑な住宅街に位置し、鉄筋コンクリート造り3階建て3ユニットの施設である。建物の壁面は半円形に張り出し、ずらりと並んだ窓からは暖かい日差しが差し込み、ゆったりとした寛ぎの空間を提供している。運営母体の医療法人は医療、看護、介護等を幅広く手掛けており、長年蓄積された経験とノウハウは連携の良さにより事業所運営の各所に活かされ、快適で安心・安全な暮らしに役立っている。職員は、「ゆっくり・いっしょに・楽しく・豊かに」をモットーに支援を行っており、さらに今年からはダイバーショナルセラピーを取り入れ、一人ひとりの思いを大切に、輝ける楽しい時間を過ごしてもらうよう実践に努めている。また、本人、家族の思いに添い数多くの看取りを行っており、元気な時の今しかできないことを汲み取り、普段できない帰郷も熱き思いで実現させている。職員は研修会、勉強会、キャリア段位制度により、サービスの向上と技術の研さんを目指しており、今後も大いに期待したい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩の際には挨拶を交わしたり、法人主催の夏祭りなどに地域住民と参加し、交流を図っている。	「ゆっくり・いっしょに・楽しく・豊かに」という事業所独自の理念をホーム内に掲示するとともに朝のミーティングで定期的に唱和し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より散歩やお祭りに参加する等、近隣住民と交流を図っている。	町内会に加入し諸行事に参加するとともに散歩での挨拶、一軒家を借りてのお茶飲み、軽作業などの交流学习、施設玄関前でのスイカ割り、焼き芋など地域との相互交流を日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者が、日常のアクティビティとして作成した貼り絵や習字など、認知症であってもその人の特性をいかしたすばらしい作品が出来る事を事業所外の掲示板に展示し地域住民に紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や町内会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員などが参加して入居者の状況(看取りも含め)、防災計画などの意見交換や報告を行いサービスの向上に役立っている。	会議は多数の家族の参加のもとで開催されている。事業所では多くの看取りを行っており、看取りを経験した家族、入所者の家族、職員との意見交換では、いずれは訪れる「死」と言う問題について真剣な話し合いが行われた。なお、詳細な議事録は家族全員に送付されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は管理者連絡会議に参加している他、市から発信されている研修に参加したり、疑問や相談はいつでも市へ問い合わせしている。	管理者は市や区の連絡会議に出席し情報の共有に努めている。区の会議では勉強会の開催を求め、一般職員参加のもと事業所の抱える悩みを相互に情報交換し、運営やサービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、事業所内で開催している研修会や勉強会に参加し、身体拘束について意見交換をしながら拘束をしないケアについて学ぶ機会を設け、実行している。	法人研修会の参加者は学んできたことを研修報告として他の職員に伝え、共通理解のもと身体拘束の無いケアの実践に努めている。事業所内で毎月開催する勉強会では、今回、KJ法によるグループ討議を行いその成果を展示し、認識の深化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修会や勉強会などに参加して、虐待についての知識を深め、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている入居者はいないが、勉強会や研修等で、管理者や職員は知識や必要性を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者がご家族に直接口頭や文章で十分理解・納得出来るまで説明を行い、同意の元、契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロア内にご家族様用に意見箱を設ける他、日頃からご家族来訪時には口頭で意見や要望などを聞くよう心掛け、その内容はカンファレンス等の中で検討し、事業所の質の向上に努めている。	定期開催の運営推進会議には多くの家族が参加し意見を述べる機会となっている。また、家族の来訪も多く、話しやすい雰囲気の中で意見、要望を聞くよう心掛け、サービスの質の向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っているカンファレンスやリーダー会議・人事考課・勉強会などで職員の意見や要望を聞き、反映につなげている	毎月開催のカンファレンス、リーダー会議、勉強会で職員から意見、提案、要望などを聞き運営に反映している。年2回の人事考課時の面談は、目標、希望、提案など管理者と個人的に話し合う機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れて、半年毎に考課を実施している。各職員が目標を立て、向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、勉強委員主催で毎回異なる議題の勉強会を開催している。各フロアに随時研修案内を開示し、参加を促し、参加後は研修報告を行い、スタッフ間で知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、フォーラムなどで他事業所との交流を図り、サービスの質の向上に向けての取組を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず、ご家族・本人と面談を行い、意向を聞き職員との情報を共有し本人に寄り添い不安のないように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に面談を行い、すぎの子での生活の意向や要望を聞き、ケアプランに反映させ、ご家族の協力が今後必要である事を伝え関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じては、他の医療機関やサービスとの連携も含めた支援内容を検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の観点から、出来る事は本人に行って頂き、洗濯物たみや食事の盛りつけなど、生活全般をスタッフと共に行うように心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年間行事や運営推進会議などの参加を促し、情報の共有や一緒に外出行事を図り共に生活を支えていく関係を築くよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染みの知人など来訪時には居室でゆっくり過ごして頂いたり、近況を報告し、関係を大切にしていますが、馴染みの場所など、施設外の取り組みはわずかに留まっております。今後の課題です。	高齢者が多く数多くの看取りを経験している事業所にあつて、元気な時の今しか出来ないことをと、積丹行きを職員の熱き思いで実現させた。また、実家の墓参りの希望を、遠方のため言い出せない人の会話の中から汲み取り、その実現の準備も進めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり方や、座席などその人の個性や入居者間の関係性を考慮していますが、訴えの多い入居者に対しての関わりが多くなってしまふのが今後の課題です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的にこちらから、電話連絡等は特に行ってはいないが、来訪時や必要に応じてはその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が伝えられる事が出来ない場合はご家族や本人の様子、状況、過去の生活歴からアセスメントし、必要に応じて援助するよう心掛けている。	本人が遠慮して言い出せないことにも、会話の中からその思いを汲み取り、職員の共通目標としてその実現に向けて取り組んでいる。法人内では、その人にとっての楽しみ、その人に寄り添って関わっていくダイバーショナルセラピーを取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前に利用されていたサービス機関からの情報などを元に必要な援助をスタッフ間で検討に対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個人記録に生活状況を記録し、内容や特変などとスタッフ間で情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のモニタリング、カンファレンスを行い、本人の状況、ご家族の意見などを含め、定期的なケアプランの見直しを行っている。	本人の心身の状況、家族の希望などを踏まえ介護計画を作成している。24時間生活変化シートを毎日記録しており、毎月1回行うモニタリング、カンファレンスの開催、特に変化のあった時に本人、家族の意向を反映した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の関わりや本人の状況は個人記録に記録しスタッフ間で情報共有を行い、定期的カンファレンスで見直しを行っているが、プランの変更が遅れたり、実際のケアとプランにタイムラグが生じてしまう事があり、今後の課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぎの子だけでなく、法人内の施設を有効に利用してサービスの多機能化に対応するよう取り組んでいます。又、ショートステイの受け入れも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園へ散歩、ショッピングモールを利用した外食、法人の夏祭りに参加し、地域住民との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の病院を伺う他、受診の際には情報提供の手紙を作成する等支援している。緊急時やご家族対応が困難時にはスタッフが付き添い対応しています。	殆どの利用者は法人内協力病院の受診、往診が多いが、本人、家族のかかりつけ医の受診の際には情報提供書の作成、家族対応が困難な時は職員が同行するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきは個人記録や温度盤等に記載し、特変事項は週1回の訪問時に伝えている。又、特変時は他フロアの訪問看護師とも連携を図り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書や、実際に口頭でその人の状況を伝える様心掛けています。入院時には担当者に様子を伺ったり、退院に向けての連携、関係作りも心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご家族に看取りに関する説明も行って、その時が来た際には再度、主治医も含めてムンテラ行って十分な理解を求めています。地域には運営推進会議等で説明しています。看取り前には自宅への帰宅も果たし、ご家族も喜ばれました。	これまで多くの看取りを行っており、家族が希望した時は受け入れている。家族の思い、気持ちの揺れに添って家族の心のケアを行っている。看取りの後は家族との意見交換を行い、更により良い看取りを目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や研修等で学びの場を提供、促したり、フロア内で救急搬送の実践、各特変・緊急時のマニュアル作成を行っているが、スタッフ間にはまだ不安はあるようです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回近隣住民を交えて避難訓練を行っている。運営推進会議の中での避難経路についての説明や、非常時の町内会への協力についても同意が得られているが、スタッフ全員が実際の避難訓練は行えていない。	避難訓練は年2回、地域住民の参加のもと夜間の人員の少ない時を想定したり、地震災害も想定して行っている。非常時の町内会の協力依頼、水、食料などの備蓄品の確保を行っている。	災害対策については力を入れ取り組んでいるが、一端発生すると重大な結果を惹起することから、想定しうる各種の災害について、季節や時間帯、利用者の特性に合わせた避難方法、家族との連携体制、防災用品の再点検、災害発生後の対応も想定した継続的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物はイニシャルで記載し、個人情報になりうるものは事務所で厳重に管理しており、排泄のスタッフ間の情報伝達も小さな声を心掛けている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう周囲に配慮しながら支援している。トイレは、扉の内側にカーテン仕切りを設けている。個人情報、保護指針のもとに厳重な管理に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や訴えを傾聴したり、思いを引きだせる様な声かけに工夫している。言葉で表現出来ない方には普段の様子や表情や仕草などを様子観察しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性を尊重し、その人らしい生活を送れるよう援助を心掛けているが、状況によっては時間の優先、スタッフ側の都合になっている事があり、今後の課題です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に誕生日や外出、行事等にはおしゃれが出来る様声かけ等援助しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭き。米研ぎなど声かけし行って頂いていますが、調理ができそうな方にも行って頂いていない等の課題もあります。	利用者の「食べたい、おいしそう」という会話の中からも、スタッフは献立を選び、取り入れている。菜園で利用者と職員が苗から育てた野菜類が食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好まれる物や声かけなど工夫し、食べて頂くよう援助している。又、嚥下や咀嚼の状態に合わせてトロミやミキサー食等で対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ガーゼを使用したり、一緒に歯ブラシを持って口腔内清掃行うなど個々に合わせたケアを援助している。又、必要に応じて歯科の往診にて口腔内清掃を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレへ行けない方、訴える事が出来ない方に対しては、仕草や食前、食後など時間を見て、声かけ、誘導を行い、トイレでの排泄が出来る様に心掛けている。	入所当初の排泄量のチェック、体温・血圧など基礎項目とともに、排泄などの項目を盛り込んだ一月の状況が一目で分かる「温度表」に記入し、適切な声かけ、誘導により排泄の自立へ向けて支援している。おむつ使用から布パンツへの改善にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く撮る等食事内容を工夫したり、歩行練習や体操等で身体を動かす自然排便を促している。必要に応じて下剤や坐薬も併用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する順番やスタッフなど個々に合わせて配慮しているが、スタッフの人数やその日の業務内容によって、入浴を行えなかったり、間隔が空いてしまう事がある。	週2回の入浴を基本としているが、希望や状況に合わせて柔軟に対応している。同性介助等の希望にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的リネン交換を行い、室温、室内の明るさ、枕の位置など個々に合わせている。又、体調や様子を見ながら臥床して頂くなど、状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を参考にスタッフは内容の確認をし、薬の変更時にも全員に周知している。又、必要に応じて医療機関と連携しながら内服援助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お菓子作り、家事手伝いの日常生活の他に体操や歌などのアクティビティや季節の行事、ご家族と外出、外食などで気分転換を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のもと、外食や外出を年に数回実施している。その他にも少人数で個別外出を行ったりしているが、全て本人の希望とは必ずしもそうではなく、スタッフ側の都合も含まれている。	毎日の散歩、菜園での野菜類の生育を楽しみながらの外気浴、近所の店での買い物など、努めて外気に触れる機会を設けている。また、季節に応じた外出、食事会など計画的な外出機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自分で金銭管理を行っている方はいないが、希望があれば本人と一緒に買い物の付き添いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1人、自分で携帯電話を所有している方がおり、自分でかけたり、出たりと上手に使っている。他に自ら電話をかけたいという方はいない。希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には名札を付けて、トイレには分かりやすいように大きな字で表記している。フロアには季節感や嗜好を考慮した年間行事や誕生日会等の飾り付けやポスターを催している。	居間・食堂の外壁が半円状に張り出し、ずらりと並んだ窓からは視界の広がりとともに暖かい日差しが差し込んでいる。エアコン、加湿器などの空調設備が快い室温と湿度を与え、季節の飾り物、鉢植え、行事の写真、利用者の作品などが、ゆったりと過ごせる居心地よい共用空間を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者との関わりを配慮した上で席を決めているが、アクティビティや行事、その時の本人の様子や状況によってテーブルや椅子の配置換えを行い、落ち着いて過ごして頂く様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使ってきた馴染みの家具などを持ち込まれている。又、ベッドや家具の配置等は本人の状況や状態で、その都度、安全や過ごしやすさを本人・ご家族と相談して対応している。	利用者の使い慣れたものや馴染みの家具・生活用品・人形・思い出の写真などを持ち込み、居心地よく暮らせる居室となっている。中には仏壇を持ち込み、礼拝を欠かさない利用者も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を付け場所がわかるようにしている他、出来るだけ広いスペースが確保出来る様に家具の配置にも配慮、工夫をしている。		